一、貳拾八町五段半貳拾五歩　山科村
　　伏見村
　　此外ニ壹段藥師ゟ寄進除之
　　此米八百五拾六俵貳斗壹升貳合
　　合七千貳百七拾九俵貳斗九合五勺
　　天正拾壹年八月十七日　利(前田)家　在印
　　種村三郎四郎殿

八月廿四日。前田利勝、稻垣與右衞門に、石川郡繩打の內四百二十俵の地を扶持す。

【本誓寺文書】石川郡　一八二四

石川郡繩打之內を以、四百貳拾俵令扶持畢。全可知行者也。仍如件。

天正十一
八月廿四日　利(前田)勝　在印

稻垣與右衞門尉殿

（利勝は前田利長の前名なり。）

八月廿九日。前田利家、鳳至郡諸橋六郷の百姓に、穴水城普請の爲鍬を携へて出役せしむ。

【諸橋文書】鳳至郡　一八二五

以上

穴水城普請之用候。竹貳百束・板六拾間、人足有次第、屋並鍬爲持、早々彼地へ可越候。於延引者可爲曲事者也。

(天正十一年)八月廿九日　利(前田)家　在印

諸橋六郷
百姓中

九月朔日。前田利家、羽咋郡氣多社に、その贄を漁する爲船一艘の諸役を免除す。

【氣多神社文書】羽咋郡　一八二六

氣多大明神爲可備御贄、獵舟一艘之儀不可有諸役狀、仍如件。

天正十一
九月朔日　利(前田)家　在印

一宮大宮司

九月四日。羽柴秀吉、結城晴朝に、その加賀に侵入せし次第を報ず。

【遺編類纂】　一八二七

去六月廿四日之御狀拜閱、本望之至候。誠遠路之處、御音問難謝候。

一、去年六月一日明(光秀)知企謀叛、夜討同前ニ、於京都信長御父子被召御腹候。不慮之次第、無是非題目候。其刻我等西國ゟ相働、於備中國城々責崩、并高松与申城取卷候處、三方ニ泥拘、力責ニ不成段、筑前守見及、水局ニ可仕与存堤築、其國之事者不及申、備前之國之河迄切懸、城中及難儀付而、爲後卷毛利・小早川・吉川五万許ニて出張、六七町間令對陣可後卷相定候。不能承引付而、彌城中令迷惑候刻、同四日巳刻於京都信長被召御腹之由注進候間、右之高松六日ニ責崩、城主之事ハ不及申、悉刎首、則七日ニ毛利・小早川陣所へ切懸可討果覺悟候處、色々令懇望、毛利相拘候國五ケ國、其上人質兩人出候條、請取令赦免候間、九日播州姬路迄納馬候事。

一、同十日に人馬之息をも不續切上、同十三日ニ山城之國山崎表及一戰切崩、明知日向守事ハ不及申、其外五千餘討捕候。國々不屆者共を悉成敗申付、御分國に相治候事。

一、去年六月中ニ國々致知行分、信長御子息達は不及申、宿老共迄令支配、筑前者播州姬路在之、五畿異見申候處、三七(信孝)殿柴田(勝家)修理亮瀧川(一益)左近兩三人申合、企謀叛、雖令調儀筑前守不能許容、卽江州与越前との境目に有之柳瀨表へ、去三月馳向居陣之事。

一、去四月廿一日に及一戰候處、柴田修理亮も當方にては、せがれより數度之武篇を仕付候者にて候間、三度まで鑓を合雖衝崩、旗本にて相こたへ、互息切候事。

一、秀吉見合候て、小姓共許にて旗本へ切懸、卽時に衝突、七千餘討捕候。惣人數者、木目之弓手妻手之谷中へ北入候事。

一、廿二日越州府中へ取懸、諸城雖相拘候乘崩刎首候へば、相殘城々令退散候事。

一、越州北庄柴田居城之儀、數年相拵、三千許留守居之者置申所に、修理亮百騎許にて懸入候事。